

## 平成29年度 女性のチャレンジ賞表彰 受賞者

### 1. 女性のチャレンジ賞(受賞者3名、受賞団体1件)

(順不同)

受賞者	都道府県	活動概要
<p>佐藤 可奈子 (雪の日舎 代表)</p>	新潟県	<p><u>「限界集落」に移住し、農業の可能性と価値を広げるため、農産物の六次産業化や情報誌発行など農村を未来へ繋ぐ活動に尽力</u></p> <p>新潟県中越地震の復興支援の目的で訪れた、新潟県十日町市池谷集落(当時住民が6軒13人のいわゆる「限界集落」と呼ばれる地域)に移住し、「山清水米(やましみずまい)」やさつまいもなど、地元の特産品の6次産業化に取り組む。</p> <p>また、農業体験で集落を訪れている東京のデザイナーとコラボし、農業に従事する女性の声を反映させた農作業着「NORAGI」を開発し、WEBショップで販売しているほか、「地方に住む女子が伝えるライフスタイルフリーマガジン『ChuClu(ちゅくる)』」の発刊、十日町市・津南町の若手農家で結成した「十日町・津南ファーマーズ『ちゃーはん』」によるムック本「feel field」の販売など、農業や里山の文化を未来へ繋げる活動を精力的に行っている。</p> <p>また、平成26年には唯一の女性委員として十日町市農業委員に就任、平成28年からは新潟県農林水産審議会の委員も務めている。</p> <p>(表彰歴) 女性未来農業創造研究会主催「大地のカコンペ2017」農業ビジネスプランングランプリ受賞(平成29年) ForbesJAPAN「ローカル・イノベーター・アワード2017」キーマン選出(平成29年) 日本地域情報振興協会主催「日本タウン誌・フリーペーパー賞」新創刊部門優秀賞受賞(平成25年)</p>
<p>武村 幸奈 (株式会社 はたけのみかた 代表取締役)</p>	滋賀県	<p><u>手間暇かけた農薬・化学肥料に頼らない地元野菜を、安心して食べさせられる特別な離乳食に</u></p> <p>学生時代、農薬や化学肥料に頼らない農家の価値と苦勞に触れ、野菜市の開催、農家を紹介するハンドブックの作成など、地域の人と農家をつなぐ活動を展開。</p> <p>2014年に株式会社「はたけのみかた」を設立。仕事が忙しく手作りするのは難しいものの素材や味にこだわった離乳食を求める子育て世代の悩みを解決するため、ベビーフード事業に着想し、美味しい野菜を作っても規格外野菜が生じやすく販路開拓にも課題の残る農家と子育て世代を結びつけるビジネスモデルとして、農薬・化学肥料に頼らない滋賀県産の野菜を使用した安心・安全な無添加ベビーフード「manma 四季の離乳食」の製造・販売を行っている。</p> <p>今後は、消費者と生産者のつながりをさらに強化し、農業のさらなる発展と子育て環境の充実をめざしている。</p> <p>(表彰歴) 京都信用金庫主催「地域の起業家アワード」優秀賞受賞(平成28年) 「カラーミーショップ大賞2016」ジャンル賞フード部門受賞(平成28年) ココクール マザーレイク・セレクション2016受賞(平成28年) 他</p>
<p>藤田 尊子 (株式会社基陽 代表取締役)</p>	兵庫県	<p><u>安全性・機能性・ファッション性を追求し、「格好の良い安全保護具」というカテゴリを確立</u></p> <p>職人の転落・滑落事故を減らしたいという願いから、安全帯の開発を開始。男性が9割を超える業界において、使いやすさと頑丈さに加え、高いデザイン性を備えた「じゃばら式安全帯」は多くのユーザーから人気を博した。ファッション性を高めることで、安全性・機能性も向上するという相乗効果を生み出し、建設現場用具業界において、安全はまず安全への意識からと考え「格好の良い安全保護具」というカテゴリを確立。大学と連携して開発した世界初の「雪下ろし専用安全帯」など、地域の特色に沿った商品も販売している。</p> <p>また、使いやすさから職人のみならず一般ユーザーにも受け入れられ、ホームセンターへの進出など新たな展開先を創出している。</p> <p>(表彰歴) 「ひょうごNo.1ものづくり大賞」製品・部材部門賞受賞(平成25年度) グッドデザイン金賞・審査員賞「わたしの選んだ一品」受賞(平成26年度) 他</p>
<p>特定非営利活動法人 マドレボニータ (理事長 吉岡 マコ)</p>	東京都	<p><u>世論に先んじて「産後ケア」プログラムの開発・提供に尽力</u></p> <p>産後うつ等産後ケアが話題になることの少なかった平成10年より「産後うつ・乳児虐待・産後のカップルの不和」などに代表される出産後の女性の心身のヘルスケアについて、プログラムの開発・研究・普及に取り組み続けている。</p> <p>産後ケアの重要性に関しての啓発活動を行うとともに、個人のみならず、東証一部上場の大手企業に対しても、産後の心身のリハビリプログラムを提供。</p> <p>平成27年以降は、企業が社員の産育休中からの復職支援施策として取り入れることができるプログラムを開発、提供している。</p> <p>(表彰歴) 第2回日経ソーシャルイニシアチブ大賞「国内部門賞」受賞(平成26年) 「東京都女性活躍推進大賞」優秀賞受賞(平成27年) 他</p>

## 2. 女性のチャレンジ支援賞(受賞団体1件)

受賞者	都道府県	活動概要
<p>日本女子大学 リカレント教育課程 (生涯学習センター所長 坂本 清恵)</p>	東京都	<p><u>再就職まで繋がるリカレント教育・再就職支援プログラム実施に尽力</u></p> <p>平成19年度より、大学卒業後に就職し、育児や進路変更などで離職をした女性を対象に、1年間(2学期)のキャリア教育を通して、技能・知識と働く自信・責任感を養い、再就職を支援するプログラムとして開設。今年度までに136大学出身者が入学している。</p> <p>ビジネス性に特化した独自の科目群を提供し、働く自覚と自信・社会性・責任感・コミュニケーション能力(各自のエンプロイアビリティ)を再開発する「キャリアマネジメント」を核として、グローバル化に対応できるよう英語、ITリテラシーを必須科目としている。</p> <p>また、課程独自の求人Webサイトの運営や独自の合同会社説明会、ハローワークとの連携など、再就職支援のための学びのみならず、就職まで確実に繋げる取組を行っており、プログラム修了者の再就職率は非常に高い。</p>

## 3. 女性のチャレンジ賞特別部門賞 テーマ:「女性の職場における活躍促進のための、企業の枠を超えた取組」(受賞団体2件)

(順不同)

受賞者	都道府県	活動概要
<p>国立大学法人 滋賀医科大学 男女共同参画推進室 (学長補佐 尾松 万里子)</p>	滋賀県	<p><u>女性医師がキャリアと子育て・介護等ライフイベントとを両立させられる環境整備に尽力</u></p> <p>24時間保育・病児保育など保育サービスの充実、相談室・授乳室の設置、育児・介護中の女性教員への研究支援員の配置など、女性研究者のチャレンジを支援するとともに、女性医師等の在職比率の向上・離職率の低下といった効果を上げることで、ひいては県内病院への医師派遣の増加に繋がっている。</p> <p>「女性医師支援のためのスキルズアッププログラム」という独自制度では、一度離職した女性医師を滋賀医科大学医学部附属病院の診療登録医として採用し、月24時間以内の勤務でライフイベントと両立させながら医療技術の維持・向上を目指し、キャリアを断絶させず、現場復帰に繋がっている。復職後は、大学附属病院以外の病院への就職支援も行うなど、1病院に留まらず医師の確保を可能とする仕組みを構築している。</p>
<p>埼玉中小企業家同友会 女性経営者クラブ・ファミ (委員長 小松 君恵)</p>	埼玉県	<p><u>女性経営者が集まり経営課題の解決に向けた情報交換をすることによる経営者支援に尽力</u></p> <p>埼玉県の女性経営者・起業家が集まり、育児や介護等による離職やキャリアの断絶が多くみられる傾向にある女性が自己実現できる働き方を実現するために、経営者としてどのように取り組むべきか、情報交換をするとともに、各種団体や経営者に対し、企業内保育の重要性や女性の能力を引き出し育てるヒントなどをテーマにセミナー・シンポジウムの開催による啓発活動に取り組む、特に男性経営者への啓発に大きく寄与してきた。</p> <p>(表彰歴) 「さいたま輝き荻野吟子賞」受賞(平成21年) 「ビジネス・イノベーション・アワード2010」受賞(平成22年)</p>